豊田中学校だより　ＮＯ７　　令和８年１１月１３日



故　郷



文責　教頭

１１月５日（木）は、PTA人権講演会・授業参観・学年懇談会がありました。

人権講演会では、山崎福太郎先生に「僕はボクだから」という演題でご講演いただきました。

〈生徒の感想より〉



★僕も山崎先生のように何でもポジティブに考えていきたいなと思いました。どんな壁に当たっても挑戦していきたいなと思いました。今の自分を大切にしていきたいなと思いました。

★山崎先生はパラリンピックにアルペンスキーで出場したときいた時とてもすごいなと思いました。山崎先生が最後におっしゃっていたたくさんの壁に当たってくださいという言葉が印象に残っていて、今のうちから壁にぶつかっていればその乗り越え方がわかるというのが今まで自分は考えたことがなかったので勉強になりました。

〈食欲の秋〉

収穫したサツマイモやポップコーンの種を使って、調理をしました。大学芋の味付けが最高で、職員室でもおいしくいただきました。焼き芋をした学年もありました。秋は、特においしい食べ物が多く、誘惑に負け食べ過ぎてしまうのは、私だけでしょうか。







〈生徒会活動〉

環境委員会の皆さんが、お昼休みを使ってパンジーを植えてくれました。とてもきれいです。

学芸委員会の皆さんは、読書旬間で、紙しばいを読んだり、パズル絵クイズをやったり、工夫して活動してくれています。私はまだ、クイズの答えがわかりません。







２学期も残すところ、１ヵ月となりました。

１日１日を大切に、楽しく充実した学校生活を送ってほしいと思います。

校長講話～高野辰之と小説「破戒」～

春の人権教育月間に校長講話で若かりし頃の高野辰之について、お話ししました。その中で、辰之先生が教員時代に下宿していた真宗寺が、島崎藤村の小説「破戒」の主人公、瀬川丑松が下宿していた蓮華寺のモデルだという話をしました。「破戒」の取材のため、藤村は飯山を訪れています。当時、藤村は小諸義塾で先生をしていました。休日に小諸へ行ってみました。小諸城跡の懐古園内に藤村記念館がありました。中には小諸時代の藤村にまつわる資料が展示されていました。懐古園を一歩出たところに小諸義塾の校舎が移築保存されていました（**写真１**）。この校舎で藤村が授業をしていたと思うと感慨深いものがあります。

瀬川丑松にはモデルがいます。大江磯吉（**写真２**）です。大江磯吉は明治元年に現在の飯田市に「被差別民」として生まれます。長野県師範学校（現在の信州大学教育学部）を卒業後、県内の小学校に赴任しますが、出身への差別を受け退職。師範学校の附属小学校の教員をしたのち、東京師範学校（現在の筑波大学）に入学しました。卒業後、長野県師範学校の教員として採用されます。しかし出身を理由に追放運動が起き、大阪府師範学校（現在の大阪教育大学）へ移ります。しかし、ここでも出身を理由にした追放運動が起き、鳥取県師範学校（現在の鳥取大学教育学部）に移ります。27 歳の時でした。31 歳の時に師範学校の校長が代わりますが、この新しい校長と教育方針が合わず、解任されてしまいます。しばらく休職していましたが、33 歳の時に兵庫県柏原（かいばら）中学校（現在の兵庫県立柏原高校）に校長として着任します。革新的な学校運営を行い、現在の生徒会（学友会）を発足しました。しかし病気をこじらせ、34 歳の若さで死去しました。

休日に飯田市へ行ってみました。円通寺の境内には、磯吉先生の胸像が建てられていました（**写真３**）。近くの八幡神社境内の脇には磯吉先生の生家跡の碑が建てられていました（**写真４**）。地区の共同墓地には磯吉先生のお墓がありました（**写真５**）。「被差別民」として生まれ、貧窮の中で自ら培った「忍と力」の精神によって、受難とたたかいながら教育者への道を切り拓いていった磯吉先生の生涯を想いながら、墓前に花を手向け、静かに手を合わせました。人権教育月間が始まります。この機会に、皆さんも差別について考えてみてください。



写真１

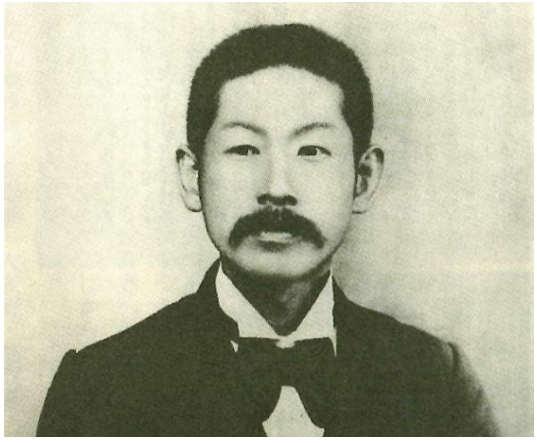


写真２



写真３



写真４

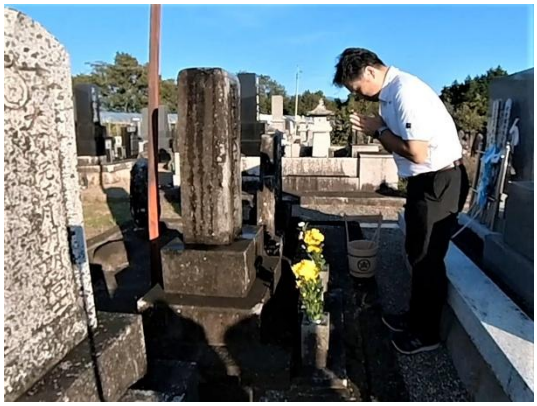


写真５